



公開日:

2023 年 2 月

ArcGIS AllSource 移行ガイド

組織で ArcGIS AllSource に移行する際の必須タスク



タスクのチェックリスト

タスク	完了
1. ArcGIS AllSource	<input type="checkbox"/>
2. ArcGIS Online の設定	<input type="checkbox"/>
3. ArcGIS AllSource の割り当て	<input type="checkbox"/>
4. ダウンロードとインストール	<input type="checkbox"/>
5. 作業の移行の準備	<input type="checkbox"/>
6. ArcMap から ArcGIS AllSource への移行	<input type="checkbox"/>
7. ArcGIS Pro Intelligence から ArcGIS AllSource への移行	<input type="checkbox"/>
8. ArcGIS Pro から ArcGIS AllSource への移行	<input type="checkbox"/>
9. 参考資料	<input type="checkbox"/>

1. ArcGIS AllSource

ArcGIS AllSource は最先端のマルチスレッド アプリケーションです。リンク解析、タイムライン、テキスト解析、グラフなどの解析手法を使用することで、情報に基づく意思決定に役立つ、わかりやすく視覚化されたインテリジェンスを作成します。ArcGIS AllSource に移行することで、ArcGIS Online と ArcGIS Enterprise のポータルを通じた統合型の共有とコラボレーションが可能になります。こうすることで、組織全体で情報と評価をスピーディに配布できるようになります。

アクションナブル インテリジェンスへの対処

ArcGIS AllSource はスタンドアロン アプリケーションであり、軍や民間諜報機関、民間部門、法執行機関のユーザーに完全対応しています。人身売買への対応や安全なエリアの確立などに必要な解析ツールと合理化されたユーザー インターフェイスが ArcGIS AllSource には用意されています。

ArcGIS AllSource に移行することで、次のようなメリットが得られます。

- 合理化されたインテリジェンス エクスペリエンス: 使い勝手と効率性に優れたユーザー インターフェイスとツール
- 視覚化されたデータ: リンク チャートやタイムラインなどのツール、および非地理空間情報に隠されているデータを視覚化する Locate XT
- 接続: 接続環境と非接続環境の両方をサポートします。
- 時空間解析: 時間と空間の両方に関連するデータの分析を可能にする高度な手法

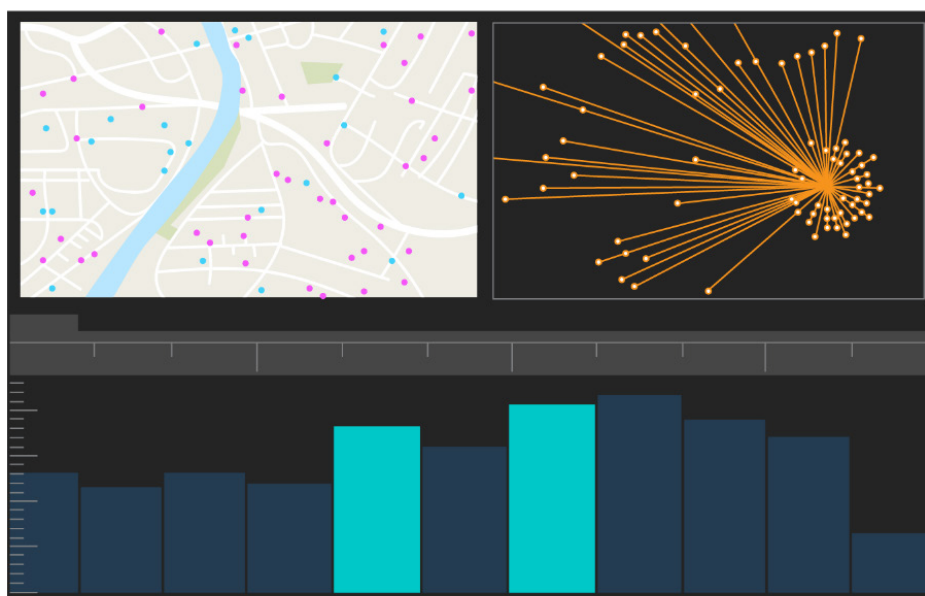
2. ArcGIS Online の設定

ArcGIS AllSource をインストールする前に、ArcGIS Online か ArcGIS Enterprise のサイトを設定することを検討してください。ArcGIS Online には、チームメンバーのコラボレーションを促進するポータルが用意されています。ポータルではデータの共有とデータへのアクセス権の付与が可能で、コンテンツもポータル出作成します。このポータル接続により、ArcGIS AllSource ではクラウドベースのコラボレーションを実現しています。ArcGIS Online の詳しい設定方法の詳細については、『[ArcGIS Online 実装ガイド](#)』をご参照ください。

ArcGIS Enterprise にもポータル接続がありますが、組織のITインフラストラクチャ内でのみ使用できます。組織にこれらの要件が存在する場合は、[ArcGIS Enterprise の詳細をご参照ください](#)。

ヒント

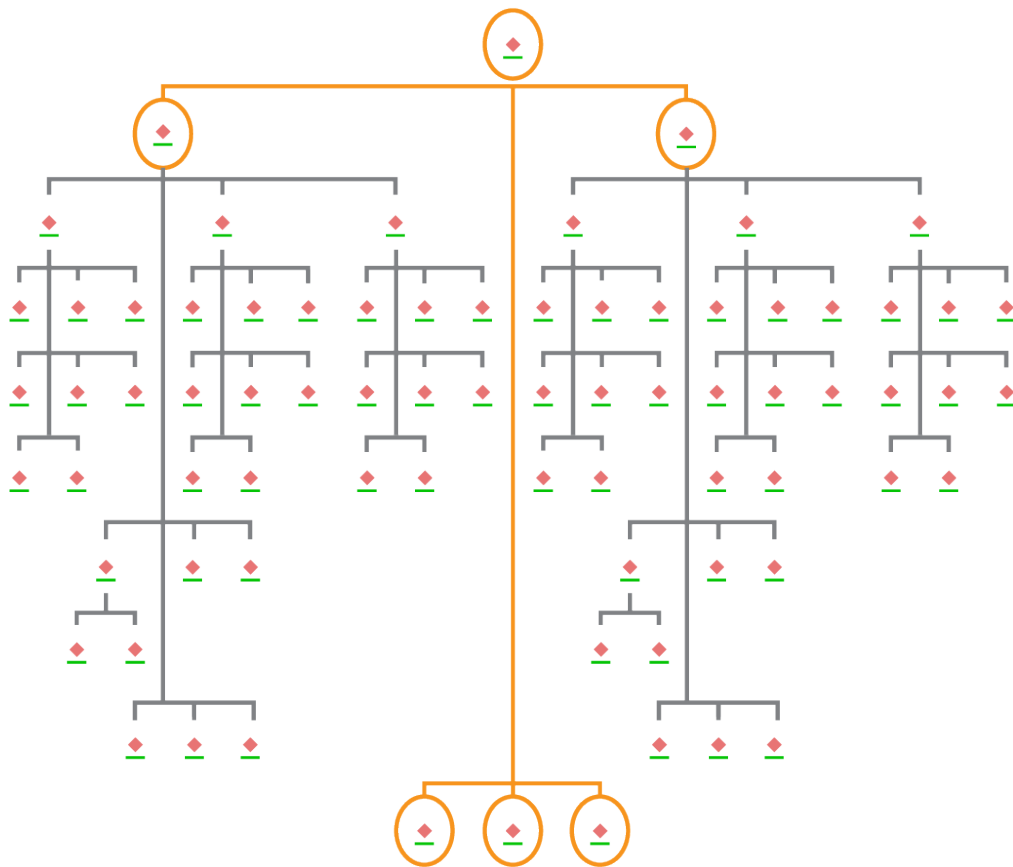
- Esri アクセスの有効化: メンバーが Esri トレーニング、Esri サポート、Esri コミュニティ、My Esri などのサイトにアクセスできるようにする場合は、[Esri アクセスを有効にする必要](#)があります。
- ArcGIS Online へのアクセス: ArcGIS Online にはマッピング、分析、共有に関連するさまざまな機能が用意されています。詳細については、[リソース](#)を参照して、学習コース、ビデオ、ドキュメントなどを検索してください。



ArcGIS AllSource のユーザー インターフェイス

3. ArcGIS AllSource の割り当て

ArcGIS AllSource は、ライセンスタイプとして単独使用ライセンスと指定ユーザー ライセンスを使用します。単独使用ライセンスは、デスクトップ コンピューターやラップトップ コンピューターなどの 2 台のコンピューターで ArcGIS AllSource を使用することを 1 人のユーザーに許可します。ただし、アプリケーションを 2 台のコンピューターで同時に使用することはできません。指定ユーザー ライセンスでは、認証情報を使用して ArcGIS AllSource にサイン インします。これらの認証情報 (ユーザー名とパスワード) は、ArcGIS Online 組織のメンバーシップから提供されます。ArcGIS AllSource のライセンス認証の詳細をご参照ください。



階層図レイアウトでノードが選択されているリンクチャート

4. ダウンロードとインストール

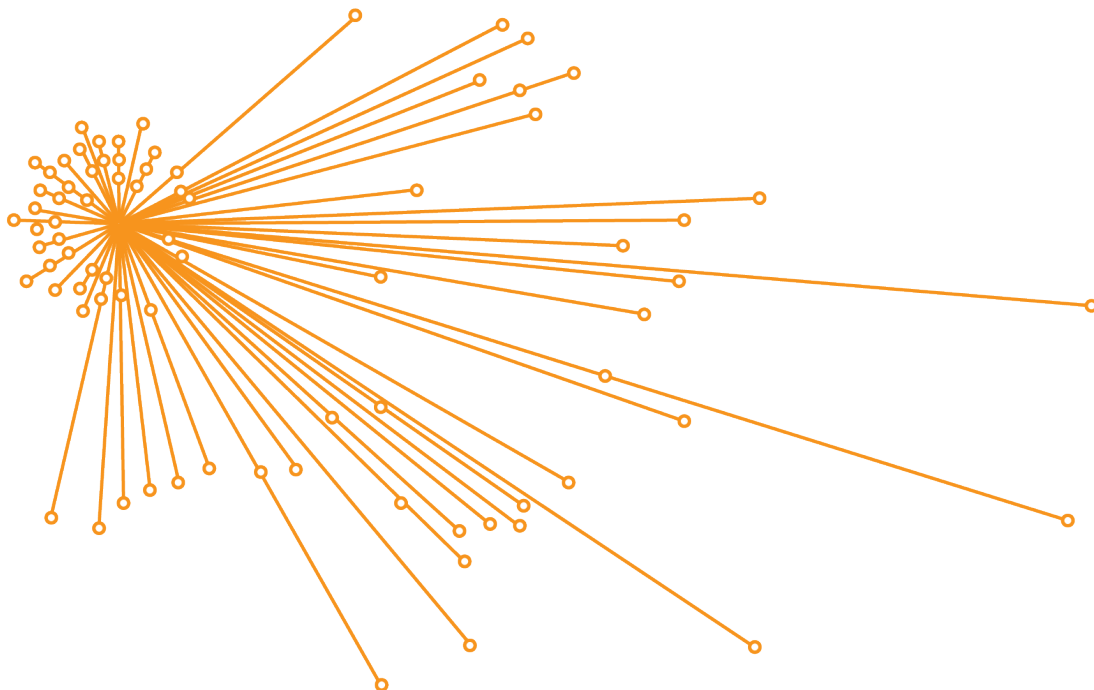
ArcGIS AllSource をチーム メンバーに割り当てると、組織の主な保守担当者は ArcGIS AllSource のダウンロードとインストールができるようになります。この担当者は、Esri カスタマー サービスとやり取りして、サブスクリプションを管理します。主な保守担当者が不明な場合や新しい担当者を指名したい場合は、Esri [カスタマー サービス](#)にお問い合わせください。主な保守担当者が決まったら、その担当者にこのセクションを共有してください。

[My Esri](#) から ArcGIS AllSource をダウンロードしてインストールする[手順を入手](#)してください。

メンバーによるソフトウェアのダウンロードの許可

セキュリティ上の理由と管理上の理由で、組織のメンバーはデフォルトで ArcGIS AllSource をダウンロードできません。管理者はダウンロード プロセスを管理できます。各メンバーがソフトウェアをダウンロードするのを許可することもできます。

Esri アクセスがすでに有効になっているので、メンバーは新しい ArcGIS Online 認証情報を使用して My Esri にアクセスできます。ただし、まだ **[組織]** タブで権限をリクエストする必要があります。これらのリクエストを承認すると、メンバーは ArcGIS AllSource をダウンロードできるようになります。

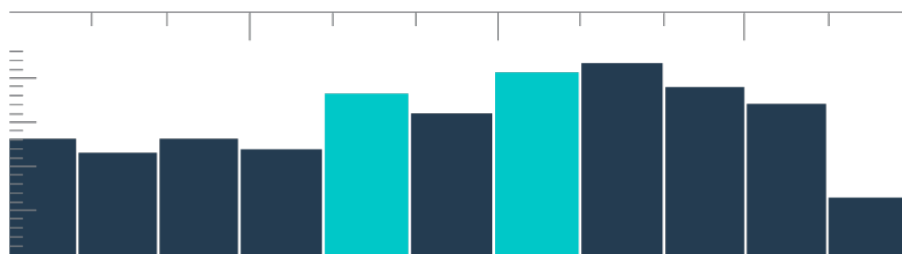


オーガニックレイアウトでノードが選択されているリンクチャート

5. 作業の移行の準備

ArcGIS AllSource への移行はシンプルなプロセスですが、考慮すべき一般的な推奨事項がいくつかあります。

- ArcGIS Pro 2.x を使用している他の組織やチームメンバーと共同作業している状況では、バックアップまたはプロジェクトパッケージを作成します。
- ArcGIS AllSource への移行前後のファイルのコピーを作成して保持します。
- 共有の際は、ArcGIS AllSource と ArcGIS Enterprise 11 を併用して新機能を使用します。
- Excel ファイルを含むパッケージの場合は、openpyxl または pandas ライブラリを使用してください。
- 作業の移行と変換は時間の余裕を持って行ってください。



ビンが選択されているサマリービューのタイムライン

6. ArcMap から ArcGIS AllSource への移行

ArcMap から ArcGIS AllSource への移行はシンプルなプロセスであり、下位互換性の制限はあるものの、ワークフローを保持できます。アプリケーションを起動したらすぐに ArcGIS AllSource についての学習を開始してください。スタートページの [Learn ArcGIS](#) から学習を開始します。ArcMap から ArcGIS AllSource への移行の詳細については、以降のセクションをご参照ください。

マップ、シーン、グローブの移行

マップ、シーン、グローブは地理データを視覚化し、アプリケーションで場所の感覚を作成します。マップ ファイル (.mxd)、マップ パッケージ (.mpk)、シーン ファイル (.sxd)、グローブ ファイル (.3dd) の移行を開始するには、**[マップ]** タブの **[マップのインポート]** ボタンを使用します。ArcGIS AllSource と ArcMap にはデータが同じように表示されますが、ArcGIS AllSource では ArcMap の .mxd、.sxd、.3dd の各ファイルではなく、プロジェクト ファイル (.asrx) を使用します。つまり、AllSource にファイルを移行すると、ArcMap で AllSource の .asrx ファイルを開けなくなります。ArcGIS AllSource への移行前後のファイルのコピーを作成することが推奨されています。

スタイルのインポート

スタイルによって、地理データの一貫性、標準化、整頓が促進されます。スタイルがないと、視覚化したデータが情報を提示する際に見落とされる場合があります。ArcGIS AllSource に移行する際には、以下のいずれかを実行して ArcMap スタイル ファイル (.style) を ArcGIS Pro スタイル ファイル (.stylx) に変換する必要があります。

- ArcGIS Online ポータルを使用することで、スタイルを検索して [プロジェクトに追加](#) できます。
- ローカルでは [保存済みスタイルをインポート](#) できます。

ジオプロセシングと Python

ジオプロセシングとは、地理データを処理し、出力データを作成するためのフレームワークおよび一連のツールです。ArcMap で Python 2 を使用してデータから情報を取得するツールを構築するか、自動化タスクを作成した場合は、ツールとタスクを ArcGIS AllSource で Python 3 にアップグレードする必要があります。

[ArcGIS Pro で実行するツールの分析 (Analyze Tools For Pro)] ジオプロセシング ツールを使用して、Python で書かれたカスタム スクリプトとツールを解析できます。このツールでは、レポート、および適切に使用するためにスクリプトで必要な修正に関する問題が作成されます。

7. ArcGIS Pro Intelligence から ArcGIS AllSource への移行

ArcGIS Pro Intelligence は ArcGIS Pro の管理対象構成です。インテリジェンス アプリケーションであり、GIS アプリケーションではありません。ただし、ArcGIS AllSource の作成に向けた第一歩ではありました。ArcGIS Pro Intelligence はインテリジェンスのプロを対象としており、インテリジェンス アナリスト向けの合理化されたツールとユーザー インターフェイスが組み込まれています。ArcGIS AllSource はこの進化の次のステップです。ArcGIS AllSource はインテリジェンス アナリストに特化して開発、サポートされているスタンドアロン アプリケーションです。

ArcGIS Pro Intelligence から ArcGIS AllSource に移行する際には次の点に注意してください。

フレームワーク

ArcGIS AllSource では、Microsoft .NET 6 Framework が必要です。

プロジェクト

ArcGIS Pro Intelligence で作成したプロジェクトとプロジェクト テンプレートは ArcGIS AllSource で開くことができます。ただし、ArcGIS AllSource で保存されたプロジェクトとテンプレートは ArcGIS Pro Intelligence で開くことができません。

ArcGIS Pro Intelligence で開ける ArcGIS AllSource プロジェクトのコピーを保存することはできません。ArcGIS AllSource で ArcGIS Pro Intelligence プロジェクトを保存すると、変更を保存する前に警告メッセージが表示されます。

ドキュメント

ArcGIS AllSource で作成または保存したマップ (.mapx)、レイヤー (.lyrx)、レポート (.rptx)、レイアウト (.pagx) の各ファイルは ArcGIS Pro Intelligence で開けません。ArcGIS Pro Intelligence ではマップ ドキュメントが XML ファイルで保存され、ArcGIS AllSource ではマップ ドキュメントが JSON ファイルで保存されます。

レイアウト

レイアウトの画像は ArcGIS AllSource では異なる方法で保存されます。ArcGIS Pro Intelligence で画像を表示するにはプロジェクトパッケージが必要です。

パッケージ

ArcGIS Pro Intelligence と ArcGIS Pro による、他のチームメンバーとのコラボレーションを可能にするパッケージを作成するツールが[パッケージ ツールセット](#)には用意されています。レイヤー パッケージ、マップ パッケージ、プロジェクト パッケージには ArcGIS Pro Intelligence、ArcGIS Pro 2.x、ArcGIS Pro 3.0 のコンテンツが含まれています。

ジオプロセッシング

ArcGIS Pro Intelligence で作成したジオプロセッシング ツールとモデルは ArcGIS AllSource で動作します。デフォルトでカスタム ArcGIS ツールボックス ファイル (.atbx) が作成されます。これは ArcGIS Pro Intelligence と互換性があります。カスタム レガシー ツールボックス ファイル (.tbx) は 3.0 では読み取り専用です。既存の .tbx ファイルとそのツールは、ArcGIS AllSource では読み取り専用になりますが、変更しなくても引き続き動作します。ツールに変更を加えるには、ツールを新しい .atbx ファイルにコピーする必要があります。ツールボックスをパッケージ化して、ArcGIS Pro 2.x および ArcGIS Pro Intelligence との互換性を保つことができます。

8. ArcGIS Pro から ArcGIS AllSource への移行

ArcGIS Pro は GIS プロフェッショナルを対象としています。ArcGIS Pro は、複数の業界で地理解析を実施できる数百ものツールときめ細かいワークフローが用意されている地理解析アプリケーションです。ArcGIS AllSource はインテリジェンスのプロフェッショナルとアナリストを対象とした、合理化されたスタンドアロン アプリケーションです。ArcGIS AllSource のリンクチャートやタイムライン、Locate XT などのワークフローとエクステンションは、地理データと非地理データの調査ワークフローにおいてアナリストをサポートします。

ArcGIS Pro から ArcGIS AllSource に移行するには次の点に注意してください。

ArcGIS Pro プロジェクト

ArcGIS Pro 2.x か ArcGIS Pro 3.0 で保存されたプロジェクトとプロジェクト テンプレート (.aprx、.ppkx、.aptx の各ファイル) は ArcGIS AllSource で開くことができ、ArcGIS AllSource で使用するために変換できます。ArcGIS AllSource で保存されたプロジェクトおよびプロジェクト テンプレートは ArcGIS Pro 2.x で開くことができません。ArcGIS AllSource プロジェクトでは、ArcGIS Pro 2.x のどのバージョンとの下位互換性もサポートされていません。

ドキュメント

ArcGIS AllSource で作成または保存したマップ (.mapx)、レイヤー (.lyrx)、レポート (.rptx)、レイアウト (.pagx) の各ファイルは ArcGIS Pro 2.x で開けません。グローブ サービス レイヤーはサポートされていません。元のレイヤーは、マップ サービスやフィーチャ サービスなどのサポートされているサービスに再公開することをお勧めします。標高にグローブ サービスを使用しているプロジェクトでは、デフォルトの Esri Terrain 3D サービスを使用できます。

パッケージ

ArcGIS Pro Intelligence と ArcGIS Pro による、他のチーム メンバーとのコラボレーションを可能にするパッケージを作成するツールが [パッケージ ツールセット](#) には用意されています。レイヤー パッケージ、マップ パッケージ、プロジェクト パッケージには ArcGIS Pro Intelligence、ArcGIS Pro 2.x、ArcGIS Pro 3.0 のコンテンツが含まれています。

配布

ArcGIS AllSource では ArcGIS Enterprise 11.1 以降がサポートされています。ターゲット サーバーと互換性があるコンテンツを使用して [Web レイヤーとサービスを配布できます](#)。サーバー コネクション情報を含むサービス定義を作成している場合、(.sd) ファイルには、サーバーのバージョンと一致するコンテンツが含まれます。コネクションニュートラルなオフライン サービス定義ファイルを作成している場合は、ファイルにお使いのサーバーのバージョンと互換性があるコンテンツが含まれるように、ターゲット サーバーのバージョン (11.1 以降、または ArcGIS Online) を指定する必要があります。モバイル マップ パッケージは、ArcGIS AllSource と ArcGIS Pro 3.0 および 2.x で開くことができます。

ジオプロセッシング

デフォルトでカスタム ArcGIS ツールボックス ファイル (.atbx) が作成されます。これは、ArcGIS Pro 3.0 および ArcGIS Pro 2.9 と互換性があります。既存のカスタム ツールボックス ファイル (.tbx) とそのツールは、ArcGIS AllSource では読み取り専用になりますが、変更しなくても引き続き動作します。ツールに変更を加えるには、ツールを新しい .atbx ファイルにコピーする必要があります。ツールボックスをパッケージ化して、ArcGIS Pro 2.x との互換性を保つことができます。さらに、新しい .atbx ファイルにコピーすることで、ArcGIS Pro 2.x からツールとツールボックスをアップグレードできます。

Python

コア ArcPy は ArcGIS Pro 2.x から ArcGIS Pro 3.0 までの変更の影響を受けません。ArcGIS Pro 2.9 と ArcGIS Pro 3.0 で作成したスクリプトが ArcGIS AllSource で動作します。

9. 参考資料

以下のリソースは、トラブルシューティング、質問への回答、トレーニング コースの検索に役立ちます。

- [ArcGIS Online ドキュメント](#)には、ソフトウェアの一般的な使用方法や特定のタスクの実行方法を理解するためのリソースが用意されています。[組織サイトの管理のベストプラクティス](#)、[新機能](#)、[トラブルシューティング](#)、[FAQ](#)に関連するトピックも用意されています。
- [Learn ArcGIS ギャラリー](#)には、ArcGIS の学習に役立つレッスン、記事、ストーリー、ビデオ、ガイドが用意されています。さらに、特定のトピックについての関連リソースの[ディスカバリーパス](#)も含まれています ([管理](#)など)。
- [ArcGIS Living Atlas of the World](#) には、GIS コミュニティと Esri から厳選された、すぐに使用できる信頼性の高いデータセットが用意されています。Living Atlas は、過去の国勢調査データから、オンラインのセンサー ネットワークや地球観測から得られた環境条件に至るまで、あらゆる情報をカバーしています。
- サービスの可用性に関する最新情報を [ArcGIS Online のシステム ステータス](#)から取得できます。
- [ArcMap から ArcGIS AllSource に移行します。](#)
- [ArcGIS Pro Intelligence から ArcGIS AllSource に移行します。](#)
- [ArcGIS Pro 2.x から ArcGIS AllSource に移行します。](#)
- [ArcGIS Pro 移行ガイド](#)を確認します。
- ArcGIS AllSource のガイド付き[学習](#)を行います。
- [Esri コミュニティ](#) ページで ArcGIS コミュニティに参加します。
- ニュース、学習資料、ビデオ、ドキュメントなどについては ArcGIS AllSource の[リソース ページ](#)をご参照ください。

FAQ

タイムラインとは何ですか？

タイムラインは、データの時間が時間軸のどの位置に当たるかを示すことで、マップ上のデータの空間ビューを補完します。タイムラインに沿ってデータをプロットすることで、時間的な順序を理解し、時間軸に沿って明らかになる傾向を見極めることができます。タイムラインの **[サマリー ビュー]** を使用することで、データをヒストグラムとして表示できます。ヒストグラムとは、数値データの分布を範囲に指定できる時間軸に沿ってデータを表したグラフです。タイムラインは、データの時間が時間軸のどの位置に当たるかを示すことで、マップ上のデータの空間ビューを補完し、時系列データの包括的なビューを提供してコンテキストをわかりやすくします。

リンクチャートとは何ですか？

リンクチャートは、データのエンティティ間のリレーションシップを視覚化したものです。リンクチャートにはノードとリンクという2つのコンポーネントがあります。ノードは、人や場所、物などのエンティティを表します。リンクはノード間のリレーションシップを表します。リンクチャートは非空間情報を表示することでマップビューを見やすくします。

ArcGIS AllSource で使用するプロジェクト ファイルタイプ拡張子は何ですか？

ArcGIS AllSource ではプロジェクトで拡張子として .asrx を使用します。

.asrx ファイルを ArcGIS Pro で開くことはできますか？

いいえ。ただし、ArcGIS AllSource の **[ArcGIS Pro で開く]** ツールを使用できます。ArcGIS AllSource と ArcGIS Pro の両方のデスクトップ アプリケーションがシステムにインストールされている場合、このツールでは現在の .asrx ファイルの名前が .aprx ファイルに変更され、選択したプロジェクトが開いた状態で ArcGIS Pro が起動します。

非接続環境でもサポートを受けるにはどうすればよいですか？

ArcGIS AllSource をインストールするとヘルプ ビューアーもインストールされます。ヘルプビューアーには Web ヘルプと同じドキュメントが含まれており、コマンドで検索できます。さらに、ヘルプビューアー全体でメモを残して特定のトピックをブックマークに登録できます。